

III 調査結果の要約

1 交通について

- 1-1 通勤・通学している場所は、「保土ヶ谷区以外の横浜市」が2割前半で最も高く、2番目に「東京都」、3番目に「保土ヶ谷区内」となっている。
- 1-2 最寄り駅は、「保土ヶ谷駅」が2割半ばで最も高い。
- 1-3 最寄り駅までの交通手段は、「徒歩」と「路線バス」が主で、この2つで8割後半を占めている。
- 1-4 最寄り駅までの所要時間は、「5分～10分未満」が2割後半で最も高く、15分未満である人の割合は、6割前半となっている。
- 1-5 近場に外出するときに困っていることは、「道路が狭く、通行しづらい」と「特にない」2割半ばで最も高く、次いで「路線バスの運行本数が少ない」と「歩道が整備されていないため、歩きづらい」が約2割で並んでいる。

2 日常の買い物について

- 2-1 日常の買い物をしている場所は、「スーパーマーケット」が9割前半で圧倒的に高い。次いで「コンビニエンスストア」が4割強となっている。
- 2-2 買い物をする店を決める際に重視することは、「店舗の場所」を重視する人が5割後半で最も高い。
- 2-3 近所の商店街に対する希望は、「値段の安さ」が4割半ばで最も高く、次いで「豊富な品揃え」が4割前半となっている。また、「商品の品質の向上」と「店舗の種類の充実」への要望も高い。

3 防犯について

- 3-1 実施(参加)している防犯対策は、「普段から近所の人と顔見知りになっておく」が3割後半で最も高い。一方で、「実施(参加)したことがない」は1割半ばとなっている。
- 3-2 防犯対策を実施(参加)したことがない理由は、「関心がなく、実施(参加)する必要性を感じない」が約2割で、「特にない」が4割後半で特に高い。
- 3-3 地域で実施(参加)している防犯対策は、「実施(参加)したことがない」が6割後半で極端に高い。
- 3-4 地域で防犯対策を実施(参加)したことがない理由は、「時間がない」と「特にない」が3割半ばとなっている。

4 防災・減災について

- 4-1 災害に対する備えは、「携帯ラジオや懐中電灯など防災用品の備蓄」が7割前半で最も高い。
- 4-2 防災事業の認知度は、「「171」(災害用伝言ダイヤル)など各種電話会社の災害用サービス」が4割強で最も高い。一方で、「知っているものがない」が4割半ばとなっている。
- 4-3 災害時の避難場所の認知度は、「広域避難場所」が5割半ばで最も高い。
- 4-4 震災時の避難場所について感じている問題は、「特に問題を感じていない」が4割弱である。あげられている問題点としては、「坂が多いなど、地形的に地域防災拠点まで行くことが困難である」が最も高い。
- 4-5 災害時要援護者の有無は、「高齢者(歩行困難や認知症などで介護が必要な人)」が4割弱で最も高い。一方で、「特にいない」が4割前半となっている。
- 4-6 家族以外の災害時要援護者への協力意向は、「「大丈夫ですか」などの声かけ」が7割後半で最も高い。
- 4-7 建物の耐震改修や減災の補助制度の認知度は、「木造住宅の無料耐震診断・耐震改修の補助」が3割前半で最も高い。一方で、「知っているものがない」が5割前半となっている。
- 4-8 住宅用火災報知器の設置状況は、「設置している」が6割半ばを占める。「設置していない」は1割半ばとなっている。
- 4-9 住宅用火災報知器を設置していない理由は、「住宅のどこに設置すればよいかわからない」が3割強で最も高い。次いで「どのように警報器を購入すればよいかわからない」と「天井などに自分で設置することができない」が2割後半となっている。「設置しなければならないことを知らなかった」は2割半ばとなっている。

5 福祉・保健について

- 5-1 普段の食生活で気をつけていることは、「1日3食（朝、昼、夕（夜））食べる」と「主食、主菜副菜のバランスを考える」と「野菜をたくさん食べる」の3項目で6割前後で並んでいる。
- 5-2 日常的に運動する習慣の有無は、「ない」が5割後半、「ある」が3割後半となっている。
- 5-3 運動をしない理由は、「忙しくて運動をする時間がない」が4割前半で最も高い。
- 5-4 喫煙状況は、「喫煙しない」が5割後半で、「喫煙する」1割後半となっている。「喫煙しない」と「以前は喫煙していたが、現在はやめている」をあわせた『現在喫煙していない人』の割合が7割後半となっている。
- 5-5 今後の禁煙の意向は、「やめたいと思うが、6カ月以内にやめるつもりはない」が4割後半、次いで「やめるつもりはない」が4割前半となっている。
- 5-6 かかりつけの歯科医院の有無は、「ある」が約7割、「ない」が2割半ばとなっている。
- 5-7 歯についての意識は、「8020運動を知っている」「歯ブラシ以外にデンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」「定期的に歯科医院を受診している（年1回以上）」が並んで4割前後。
- 5-8 1年以内の健康診断の受診の有無は、「受診した」が6割後半、「受診していない」が2割半ばとなっている。
- 5-9 健康診断を受けていない理由は、「受診する機会がない」が2割半ばで最も高い。
- 5-10 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の認知度は、「名前も内容も知らない」が約7割を占めている。
- 5-11 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」をどのような方法で知ったかは、「広報よこはま ほどがや区版」が約7割を占めている。
- 5-12 福祉保健活動拠点の認知度・利用状況は、「知らない」が6割半ばを占めている。
- 5-13 地域ケアプラザの認知度・利用状況は、「知っているが利用したことはない」が4割前半と高く、次いで「知らない」が3割半ばとなっている。
- 5-14 地域ケアプラザで行っている業務の認知度は、「地域活動交流（地域の福祉・保健活動の場の提供、各種イベント・講座等の開催など）」が6割前半で最も高い。
- 5-15 保土ヶ谷区の子どもにとって安心・安全度は、「どちらかといえばそう思う」が5割半ばで最も高い。
- 5-16 子育てをしていく中で、特に必要なことは、「夫婦（子どもの父母）の協力」が7割半ばで特に高く、次いで「親同士の交流の場や機会が豊富にあり、近くに子育て仲間がいること」が4割前半となっている。

6 地域でのつながり・地域活動について

- 6-1 あいさつなどで近所の人に声をかける頻度は、「よくある」が6割半ば、日常的にあいさつをしていない人（「ときどきある」、「あまりない」、「まったくない」の合計）が3割半ばとなっている。
- 6-2 近所づきあいの程度は、「顔を合わせたらあいさつをする」が4割半ばで最も高い。
- 6-3 近所づきあいを始めたきっかけは、「日頃のあいさつ」が約7割半ばで極端に高い。
- 6-4 地域に期待することや役割は、「災害時の援助・助け合い」が6割前半で最も高く、次いで「声かけや安否の確認」が5割前半、「防犯に関する協力・気配り」が4割半ばとなっている。
- 6-5 地域に対してできそうなことは、「声かけや安否の確認」が6割半ばで最も高く、次いで「災害時の援助・助け合い」が約5割となっている。
- 6-6 地域団体・委員の認知度は、「自治会・町内会」が9割前半とほとんどの方が認知している。次いで「民生委員・児童委員」が5割前半、「消防団員」が4割前半となっている。
- 6-7 参加したことがある地域活動は、「お祭りなどの行事や催し物」と「自治会・町内会活動」が5割半ばで並んでいる。
- 6-8 地域活動に参加したことがない理由は、「時間がとれない」が3割後半、「活動の内容がわからない、情報がない」が3割半ばと高い。一方で、「特に理由はない」が2割後半となっている。
- 6-9 今後参加したい地域活動は、「特になし」が2割後半で最も高い。次いで、「地域に貢献できる活動」も2割後半となっている。
- 6-10 興味のある活動分野は、「文化・芸術・音楽」と「スポーツ」が2割を超え、並んで高い。

7 地球温暖化対策について

- 7-1 日常生活での地球温暖化防止対策は、「電化製品や照明を使わないときはこまめにスイッチを切る」が約8割で最も高い。
- 7-2 地球温暖化防止対策を行っていない理由は、「面倒である」が2割半ば最も高く、次いで「難しくてよくわからない」と「何を行ったらよいかわからない」となっている。
- 7-3 今後行えそうな地球温暖化防止対策は、「電化製品や照明を使わないときはこまめにスイッチを切る」が5割前半で最も高い。

8 行政サービスについて

- 8-1 区役所へ出かける頻度は、「年に数回程度」が4割半ばを占め、次いで「数年に1回程度」が3割前半となっている。
- 8-2 市政・区政情報の入手方法は、「広報よこはま市版・区版」が7割半ばで特に高く、次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が5割半ばとなっている。
- 8-3 行政や地域の知りたい情報は、「保険・年金」が3割前半で最も高く、2番目に「税金」、3番目に「福祉（高齢、障害、生活保護など）」となっている。
- 8-4 「保土ケ谷区区政運営方針」の認知度は、「名前も内容も知らない」が7割前半で最も高く、認知度は低い。
- 8-5 望ましい区の発展方向は、「医療や福祉が充実している」と「治安が良い」が並んで5割を超えている。次いで「商店などが充実し、日常の買い物が近所で事足りる」が4割半ばとなっている。
- 8-6 「保土ケ谷区ホームページ」を見る時は、「日常生活で分からないことがあった時（福祉・保健・子育て・ごみ・リサイクルなど）」が3割半ばで最も高い。一方で、「区ホームページは見ない」は4割半ばと高くなっている。
- 8-7 「広報ほどがや区版」で注目するものは、「イベントや区役所の案内記事」が5割半ばで特に最も高い。

9 生活環境全般に対する重要度・満足度

- 9-1 重要度は、総合的にみると高い順に「防犯対策」、「病院や救急医療などの地域医療」、「災害対策」、「バス・電車の便」となっている。
- 9-2 満足度は、総合的にみると高い順に「バス・電車の便」、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」、「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」、「身近な行政窓口・相談サービス」となっている。
- 9-3 ニーズ度は、総合的にみると高い順に「災害対策」、「防犯対策」、「病院や救急医療などの地域医療」、「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」、「道路環境の整備」となっている。
- 9-4 満足度と重要度の分析(地域別)は、平均的にみると、【満足度】は天王町・峰岡・常盤台と上新・西谷・上星川で高い。【重要度】は大きな差はみられない。
- 9-5 以前との比較は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」と「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」で2割後半で改善への評価が高い。また「商店街や企業の振興」は1割後半と評価が低い。
- 9-6 定住意向は、「現在住んでいるところに住み続けたい」と「区内の他のところへ移りたい」をあわせた区内への定住意向は約8割となっている。また、「横浜市内の保土ケ谷区以外のところへ移りたい」と「横浜市内へ移りたい」をあわせた区外への転出意向は1割半ばである。